

## 看護実践の有効性と検証に関する研究

—入院患者の日常生活動作レベルが

ベッド周辺環境の微生物汚染に及ぼす影響—

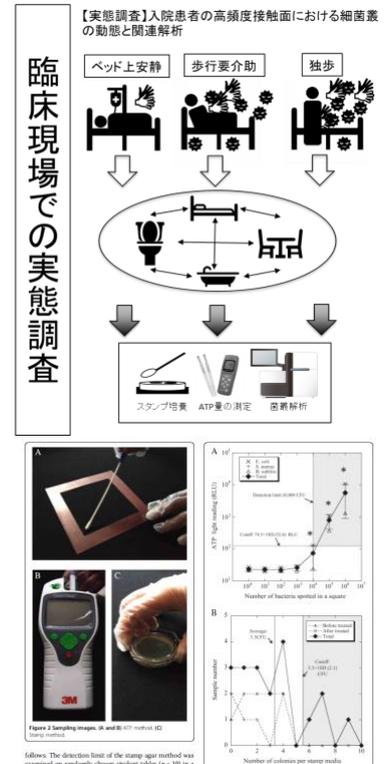
看護学科 基礎看護学領域 宇野 智子 准教授



## Q. どのような研究をされていますか？

A. 入院患者のベッド周辺環境を整える看護援助に関心をもっています。看護師が環境を整えるには、患者が快適に過ごせるように保つこと、微生物汚染や感染リスクから患者を守るために環境を整備することなど、さまざまな役割があります。その中でも私は、入院患者の手指の接触を介した微生物汚染に着目しています。先行研究では、患者の手指が頻繁に触れる環境表面が感染の要因となり得ることが報告されています。

これまでに、入院患者のベッド周辺環境表面の微生物汚染度を詳細に評価し、汚染の変動が大きいことを明らかにしました。しかし、汚染を引き起こす具体的な要因の特定には至っておらず、さらなる検証が求められています。現在は、患者の日常生活動作の違いが手指の接触頻度や微生物汚染に影響を与えるのではないかと仮説を立て、臨床現場での実態調査を進めています。これらの研究成果は、看護師が環境汚染リスクを適切に判断し、患者の日常生活動作に応じた接触感染予防策を立案するための基礎的根拠となります。これにより、感染管理に関する新たな知見を提供し、より安全な医療環境の実現に貢献することを目指しています。



## Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 最近では、入院患者のベッド周辺環境の微生物汚染と感染リスクに関する研究に注力しています。これまでの研究では、食道がん患者の周術期から外来における継続的な栄養評価、豪雪地帯に暮らす健康な高齢者の活動量と栄養の関連性、さらに周術期看護やがん看護に関する幅広いテーマに取り組んできました。

## Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 看護学は多様な知識と技術が求められる実践的な学問です。しかし、その価値やプロセスは暗黙知として共有されることが多く、十分に可視化されていない現状があります。私の研究では、看護実践を客観的かつ具体的に示し、教育や臨床現場での活用されることを目指しています。今後は、現在取り組んでいる研究を発展させるとともに、看護師の判断プロセスや看護援助の提供方法の分析、標準化された指標の作成、観察やインタビューによる実践の特徴の抽出にも取り組んでいきたいと考えています。こうした研究を通じて、看護の専門性の向上に寄与したいです。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 基礎看護学領域 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns\\_kiso-kango.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_kiso-kango.html)

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻基礎看護科学 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g\\_ns/ahfmc00000013p2.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000013p2.html)